

一有効茎歩合が高くなる一。(表I参照) さらに後期に施肥することにより、収量面で高い結果となっています。

基肥無窒素のイネは穂首分化期のつなぎ肥を十分にやれば、モミ数が増える(滋賀短大)

N 施肥法 (kg) a. b. c. d. e. f.	m ² あたり 穂数	1 穂 モミ数	登 熟 歩 合	a あたり 収 量	有効茎 歩 合	モミ ワラ比		
							%	kg %
6-2-0-0-2-2	412	73.8	82.2	57.3	59	0.86	昭和56	
0-0-4-0-4-0 (1)	407	78.6	86.5	62.0	74	0.98	日本晴	
0-0-4-2-4-0	415	78.4	88.0	65.9	75	1.01		
6-2-0-0-2-2	438	65.9	91.0	59.3			昭和57	
0-0-4-0-4-0 (1)	432	66.0	89.5	58.0			日本晴	
0-0-4-0-4-0 (2)	481	69.7	89.7	65.0				
0-0-4-2-4-0	476	65.7	94.8	64.5				

a. 基肥, b. 分けつ期, c. (1)は最分期 (2)は最分期+10日, d. 穂首分化期, e. 穂肥, f. 実肥

LP 複合 444 をワンショット施肥(全量基肥 1 回のみ) しますとこのB型とほぼ同様な曲線を描き、収量面でも問題はありません。

この時期に、生育スピードが遅いから、色が薄いからといって速効性のチッソを施すことは(施肥ムラなおしは別としても)一時的に濃度を高めることになり、安定した養分の吸収をさまたげることになり、無効分けつを促進したり、下位節間の助長を促すことにもなりかねない一倒伏の危険性をひきおこす一で絶対にさけてください。

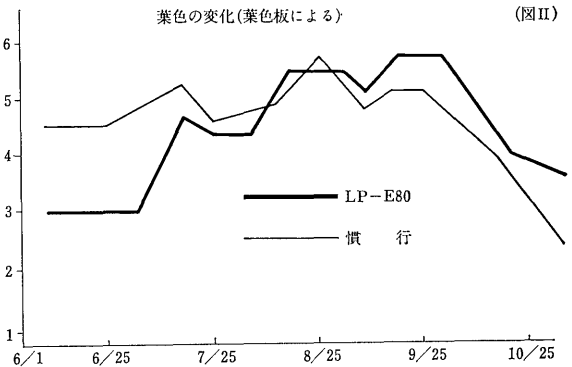
② 葉色の変化はどうなる……

稲の葉色は養分(主としてN)の吸収量が多いか少いかによって濃淡の差が出るし、吸収の形態によっても差が出るものです。又、一定の条件下であれば生理的に自然に変化するものです。(イネに三黄あり)。

無肥料で米をつくっても余程のことがない限り60~70%程度の収穫はあるもので、必要な時期に必要な養分を吸収出来る条件さえつくっておけば葉色は自然に変化するもので気にする必要はありません。(米は葉色の変化でつくられるものではありません)。

LP 複合の基肥一回施肥で作った稲の葉色変化は図IIの通りです。

ラグ期に至るまでの葉色は慣行に比較してかなり淡く経過しており、速効成分が少ないだけLPのタイプが長いもの程その傾向は強くなっています。が収量面において全く問題ははありません。



くみあいバーミキュライト園芸床土用資材

「与作V I号」の使用法

チッソ旭肥料(株) 技 術 部

1. 与作V I号は、腐葉土や完熟堆肥の代りに土と混合するだけで、果菜類、葉菜類及び花き類の健苗育成が可能な培養土(床土)が作れる、育苗床土用資材です。

2. 与作V I号の組成と特性

① 与作V I号は、土壌改良効果の高いバーミキュライトとピートモスなどの素材に肥料養分を吸着させた資材です。(第1表)

② 与作V I号は腐葉土に似た性質を持っています。(第2表)

③ 与作V I号と土で作った床土の保水力は大きく、通気性もよくなります。さらに肥持ちもよくなり、

理想的な園芸床土を作ることができます。

第1表 性 状

形状	見掛 比重	pH (1:5)	EC (1:5)	水分 30°C-6m	肥 料 成 分						
					※ チッソ	リンサン	カリ	石灰	苦土	マンガン	ホウ素
粉粒状	0.35	6~7	1~1.5	約30%	0.16 (g/ℓ) (0.5)	1.26 (g/ℓ) (4.4)	0.1 (g/ℓ) (0.4)	0.2 (g/ℓ) (0.7)	0.09 (g/ℓ) (0.3)		

※チッソ成分は、アンモニウム態チッソ40%とCDU態チッソ60%です。

第2表 与作V I号と腐葉土との理化学性の比較

床土資材	見掛比重	全孔隙率	気相率	液相率	塩基置換容量
与作V I号	0.35	89%	52%	37%	51me
腐葉土※	0.20	90%	52%	38%	98me

※荒木浩一：農業および園芸50 (5) 670~674, 1975

3. 与作V I号の使用法

① 床土に使う土の準備

イ) 与作V I号に混合する土は山土や田畑の土が使用出来ませんが、同じ種類の野菜などを栽培した田畑の土は病害の恐れがあるので、消毒をしてから使用してください。

ロ) 土は荒くだし、1~2cmの篩に通してください。

② 床土の作り方

イ) 容積比で与作V I号1に対して土を2~3の割合で混合します。

ロ) 使用する土の質(透水性や保水性)が悪い場合は、与作V I号と土の混合比を1:2にするなど与作V I号の使用量を多くすると良いでしょう。

ハ) 育苗する作物に適した混合割合と管理の目安は第3表を参考にして下さい。

ニ) 土壤消毒をする場合は、土だけを消毒し、与作V I号の消毒や、混合後の消毒はさけてください。

第3表 土との混合割合と育苗管理のめやす

作物	混合条件		育苗床土		鉢上げ後の育苗日数	※肥料添加の要・不要	水管理の注意
	混合比(容積)	混合土壌の注意	使用量ℓ	針の大きさcm			
トマト	1:2~3		0.9	12	20~50	●	
ナス	1:3		0.9~1.2	12~15	40~80	●	
ピーマン	1:2~3		0.9~1.2	12~15	30~70	● (ただし追肥)	
キュウリ	1:2~3	透水性の悪い 埴質土の使用は避ける	0.6~0.9	10~12	20~30	○	控えめに
メロン	1:2	透水性の悪い 埴質土の使用は避ける	0.8~0.9	10~12	20~30	○	控えめに
スイカ	1:2~3	透水性の悪い 埴質土の使用は避ける	0.3~1.2	9~15	20~45	○	控えめに
カボチャ	1:2~3		0.3~1.2	9~15	20~30	○	
イチゴ	1:2~3	砂壤土など透水性の良い土を使用する	0.9~1.2	9~15	75~90	●	
レタス	1:3		0.05~0.1	(ペーパーポット)	20~30	○	
セロリ	1:3		0.3~1.2	9~15	20~40	●	

※ 地域の指導基準に従ってください。

● 一般的に肥料添加が必要とされる作物です。

○ 一般的に肥料添加が必要ではありませんが、生育後期にこえ切れが見られる場合は追肥してください。

③ 肥料養分の施用

イ) 与作V I号には、肥料養分が添加してありますが、床土の量および混合割合によって、鉢当りに含まれる肥料養分量がかわってきます。

9cm, 12cm, 15cm各鉢の床土に含まれる肥料成分量は第4表の通りです。これ以外の大きさの鉢を使う場合は、第5表によって肥料養分量を換算してください。

第4表 鉢の大きさ別の床土に含まれる肥料成分量

鉢の大きさ	床土量 ℓ/鉢	混合比 1:2容			混合比 1:3容		
		チツッg	リンサンg	カリg	チツッg	リンサンg	カリg
9cm(3寸)	約0.3	0.05	0.44	0.04	0.04	0.33	0.03
12cm(4寸)	約0.9	0.15	1.32	0.12	0.11	0.99	0.09
15cm(5寸)	約1.2	0.20	1.76	0.16	0.15	1.32	0.12

第5表 床土1ℓ当りに含まれる肥料成分量

混合比 与作V I号:山土	チツッ	リンサン	カリ
	g/ℓ	g/ℓ	g/ℓ
1容 : 2容	0.17	1.47	0.13
1容 : 3容	0.13	1.10	0.10

ロ) 与作V I号に含まれる肥料養分は、育苗期間の短い作物(キュウリ, メロン等)に必要な最少量です。従って指導基準(または慣行法)にくらべ明らかに不足する場合は、育苗する作物に適した量を元肥または追肥で補ってください。

④ 育苗上の注意

イ) 鉢詰めから播種または移植までの作業

床土の鉢詰めは、少なくとも播種または移植時の2~3日前に行い、詰める土の量は、鉢の上部いっぱい(ただし追肥)に軽く詰めてください。その後、鉢の底から水が出てくるまで十分灌水をしたあとビニールシートをかけ、育苗するハウス等の場所に移してください。

ロ) 播種または移植後の灌水

与作V I号は、保水性が優れていますので、慣行法よりやや控えめ(床土が乾かない程度)に灌水するとしっかりした苗ができます。

以上